

木材需給動向について (全国)

令和3年2月
林野庁

目次

1 価格の動向

(1) 直近の価格推移（原木市場・共販所）

ア スギ（全国）

イ ヒノキ（全国）

(2) 製品価格の推移・動向

2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材（全国）

(2) 合板（全国）

(3) プレカット稼働率（地域別・全国）

(4) チップ（全国）

3 住宅着工戸数の推移

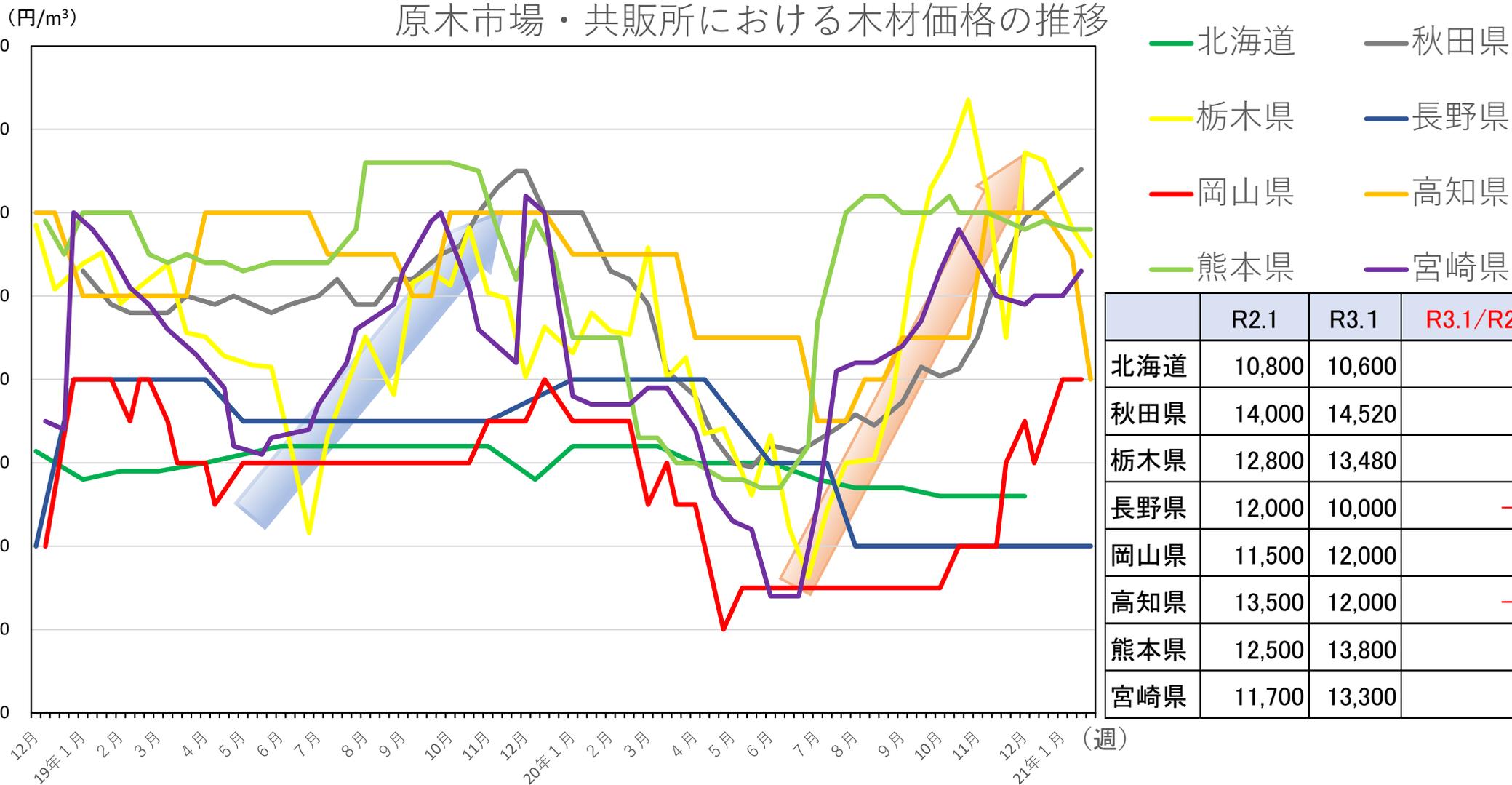
4 主要木材の需給見通し

1 価格の動向 (1) 直近の価格推移 (原木市場・共販所)

ア スギ (全国) φ24cm程度、3.65~4.0m (平成30年12月~)

- 令和2年は6月頃の価格が例年よりも大きく低下したが、7月の長雨などの影響により出材が低下し、以降価格が上向きに転換。11月頃の価格は前年と同程度まで上昇しており、価格の面ではコロナの影響が出る以前まで回復。
- 令和3年1月のスギ原木価格は、対前年比17%減から14%増と地域により異なる傾向が見られる。

原木市場・共販所における木材価格の推移



注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。径級は24.0cm程度、長さは3.65~4mの中目原木。

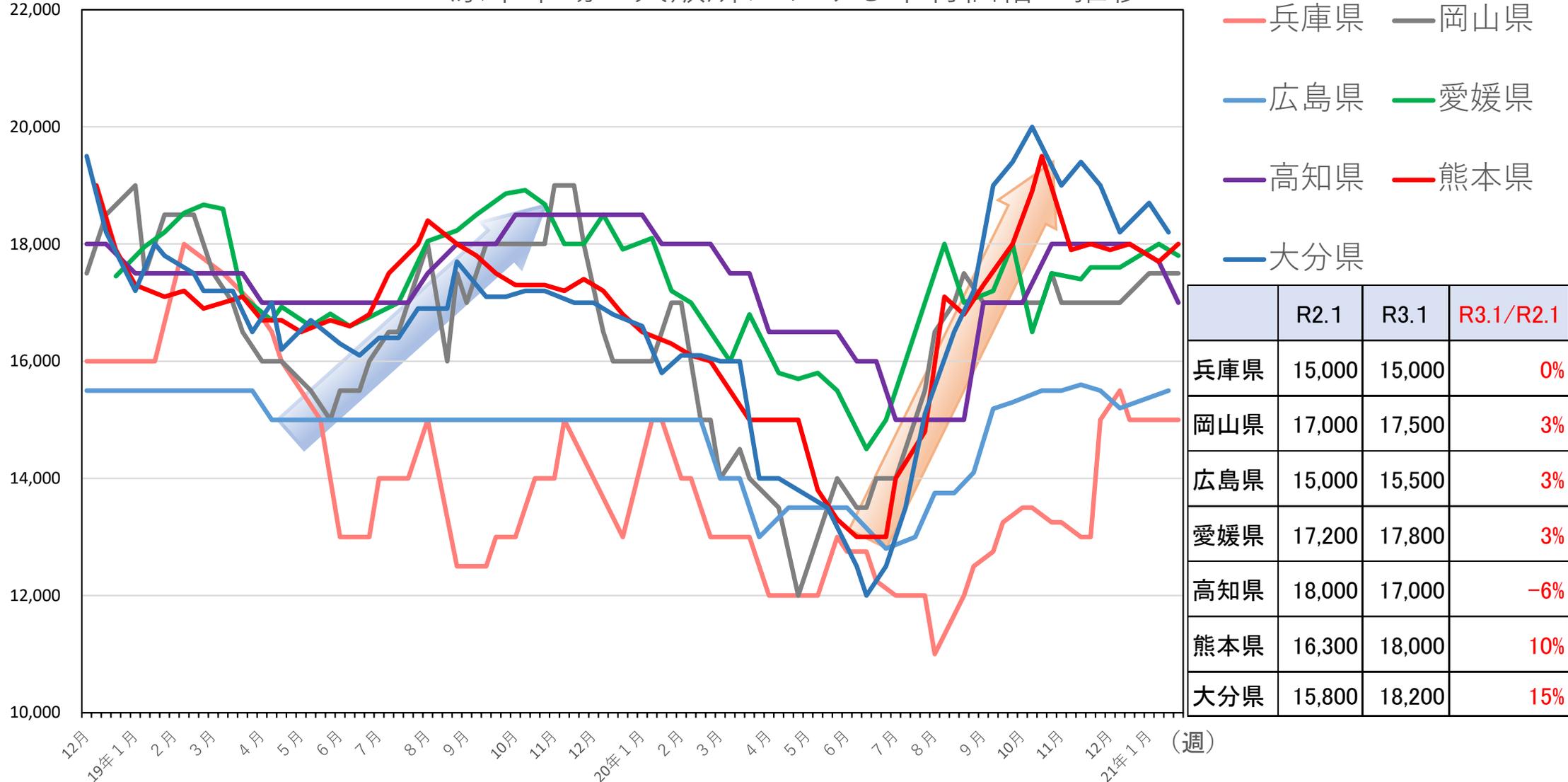
注2：都道府県が選定した特定の本市場・共販所の価格。

資料：林野庁木材産業課調べ

イ ヒノキ (全国) φ24cm程度、3.65~4.0m (平成30年12月~)

- ヒノキにおいてもスギと同様の傾向にあり、令和2年6月頃の価格は例年以上に大きく低下したが、7月以降の価格上昇により、10月頃には昨年同程度かそれ以上の価格まで回復している地域も見られる。
- 令和3年1月のヒノキ原木価格は、対前年比6%減~15%増と増加している地域が多い。

(円/m³) 原木市場・共販所における木材価格の推移



注：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

資料：林野庁木材産業課調べ

(2) 製品価格の推移・動向

- 令和2年の製品価格は前半に多くの地域で下落が見られた。
- 一方、9月以降は横ばいで推移し、秋から年末にかけて地域や品目によっては価格の回復が見られた。

○ スギ柱角・乾燥材 105×105×3000mm [円/m³]

	令和元年 9月	令和2年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和3年 1月
北海道	67,700	67,700	67,100 ↓	67,100	67,100	67,100	67,100	67,100	67,100	67,100	67,100	-
東北	58,000	58,000	58,000	58,000	58,000	55,000 ↓	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000
首都圏	54,000	54,000	53,000 ↓	53,000	53,000	53,000	53,000	53,000	54,000 ↑	54,000	54,000	54,000
名古屋	65,000	65,000	65,000	65,000	60,000 ↓	55,000 ↓	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000
大阪	55,000	55,000	55,000	54,000 ↓	54,000	52,000 ↓	50,000 ↓	50,000	50,000	50,000	50,000	51,000 ↑
広島	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000	56,000
九州	53,000	52,000	50,000 ↓	50,000	48,000 ↓	48,000	47,000 ↓	46,000 ↓	46,000	48,000 ↑	49,000 ↑	51,000 ↑

※スギ柱角・乾燥材は北海道のみ、エゾマツ・トドマツ105×105×3650mm

○ ヒノキ柱角・乾燥材 105×105×3000mm [円/m³]

	令和元年 9月	令和2年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和3年 1月
首都圏	66,000	66,000	65,000 ↓	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000
名古屋	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000
大阪	64,000	64,000	64,000	63,000 ↓	63,000	61,000 ↓	59,000 ↓	59,000	59,000	59,000	59,000	60,000 ↑
広島	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000	65,000
九州	62,000	62,000	62,000	61,000 ↓	61,000	61,000	60,000 ↓	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000

※ヒノキ柱角・乾燥材は九州のみ、120×120×3000mm

○ 針葉樹構造用合板 12×910×1820mm [円/枚]

	令和元年 9月	令和2年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和3年 1月
東北	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	950 ↓	950	950	950	950	950
首都圏	1,050	1,050	1,030 ↓	1,030	1,010 ↓	980 ↓	950 ↓	950	940 ↓	940	940	950 ↑
名古屋	1,050	1,050	1,020 ↓	1,020	1,000 ↓	960 ↓	930 ↓	930	930	930	930	930
大阪	1,050	1,050	1,010 ↓	1,000 ↓	990 ↓	950 ↓	920 ↓	900 ↓	900	900	900	900
広島	1,070	1,070	1,050 ↓	1,030 ↓	1,030	1,000 ↓	950 ↓	930 ↓	930	930	930	950 ↑
九州	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

○ スギ集成管柱 105×105×3000mm [円/本]

	令和元年 9月	令和2年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	令和3年 1月
東北	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800
大阪	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750	1,750
広島	1,930	1,880 ↓	1,880	1,880	1,860 ↓	1,860	1,860	1,860	1,860	1,860	1,860	1,860
九州	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800

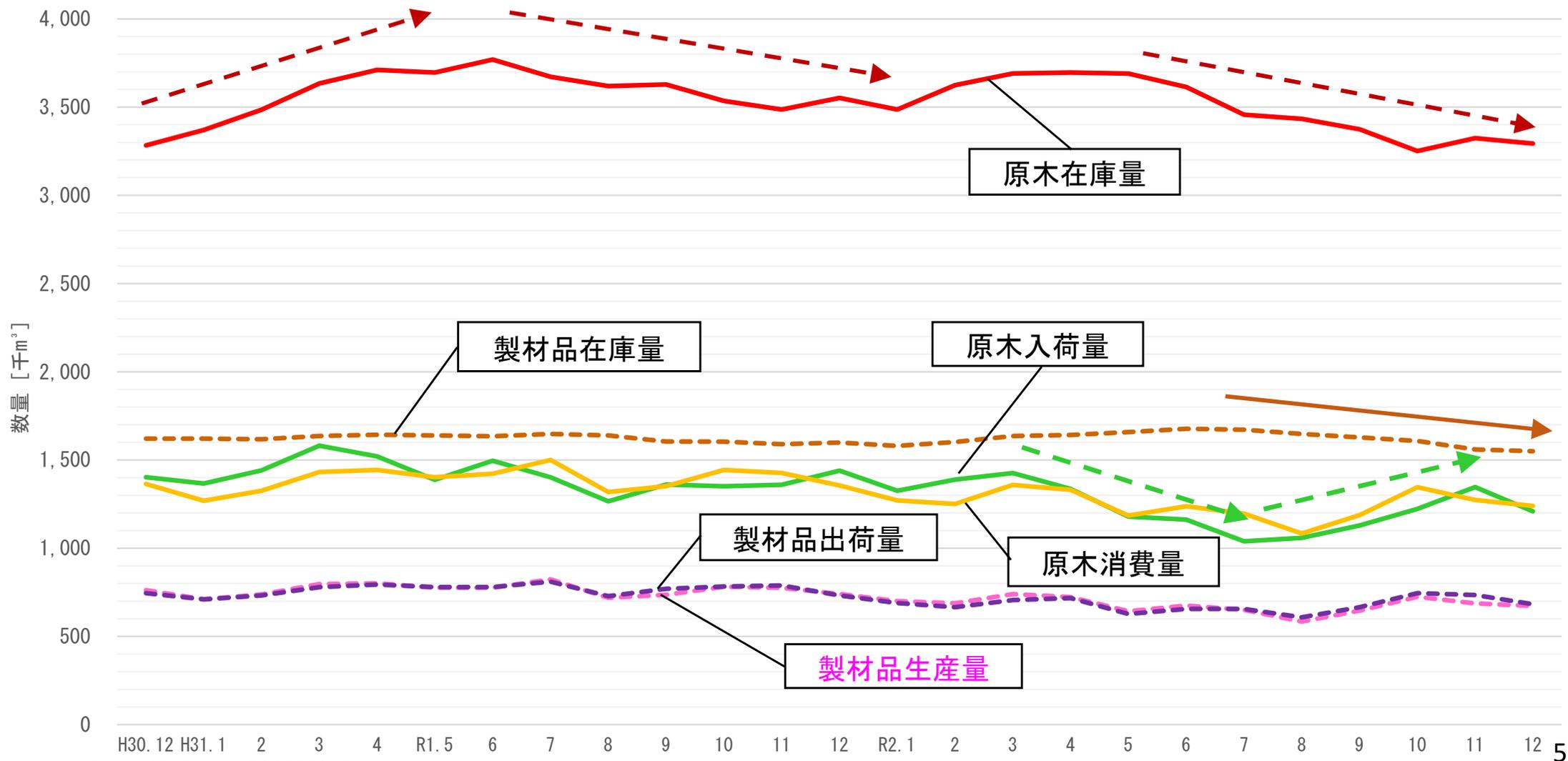
□横ばい □↓下落 □↑上昇

出典：日刊木材新聞

2 工場の原木の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材 (全国)

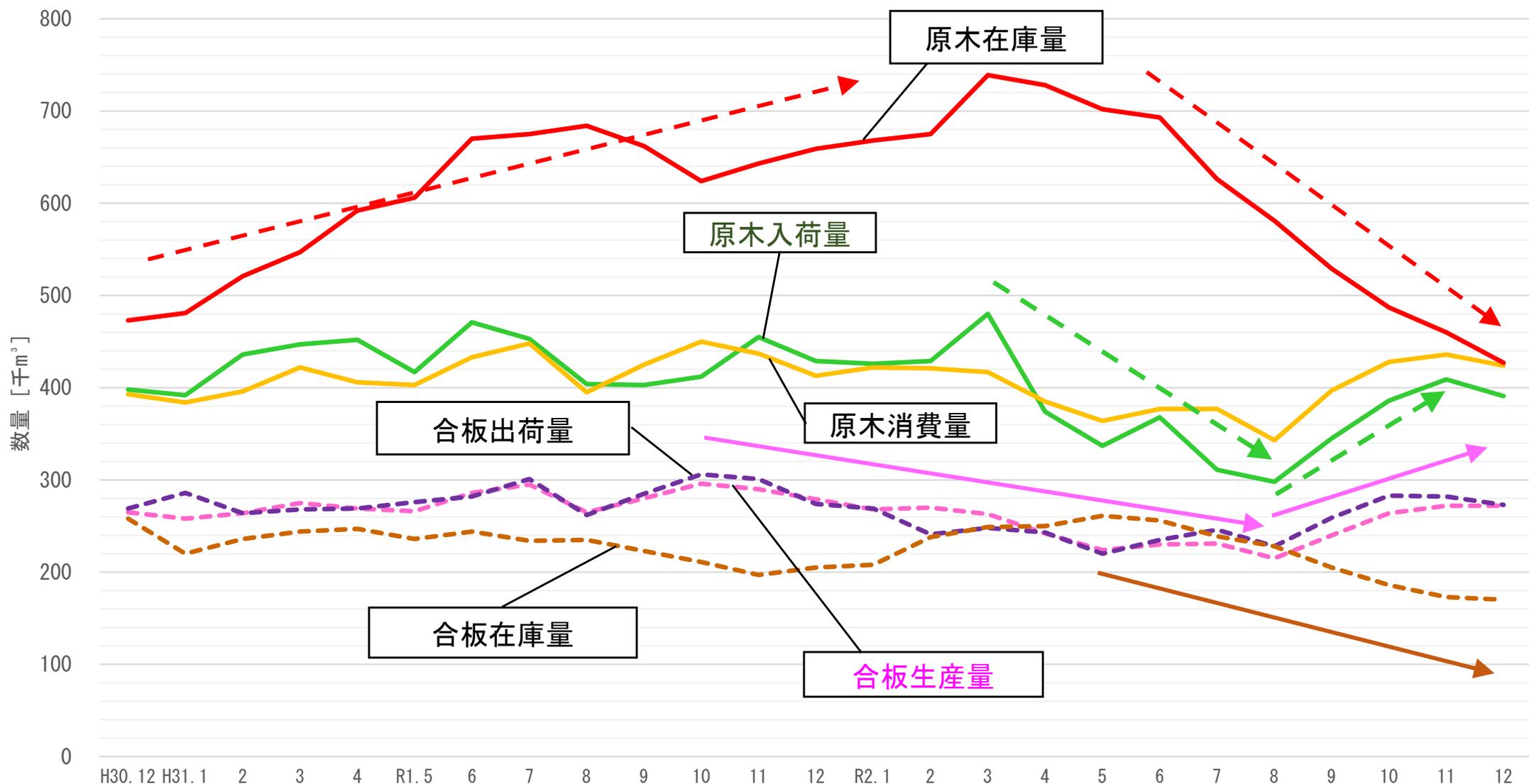
- ・ 原木の入荷量、消費量は、令和2年4月以降減少したが、8月から上昇に転じている。12月には原木不足の影響からやや減少した。原木の在庫量は6月以降減少のトレンドにあるが、例年の季節変動の範囲。
- ・ 令和2年の製材品の生産量、出荷量は、数ヶ月で増減を繰り返したものの令和元年に比べ、年間で見れば1割の低下となった。在庫量は令和2年6月以降緩やかな減少傾向にある。



資料: 農林水産省「製材統計」

(2) 合板 (全国)

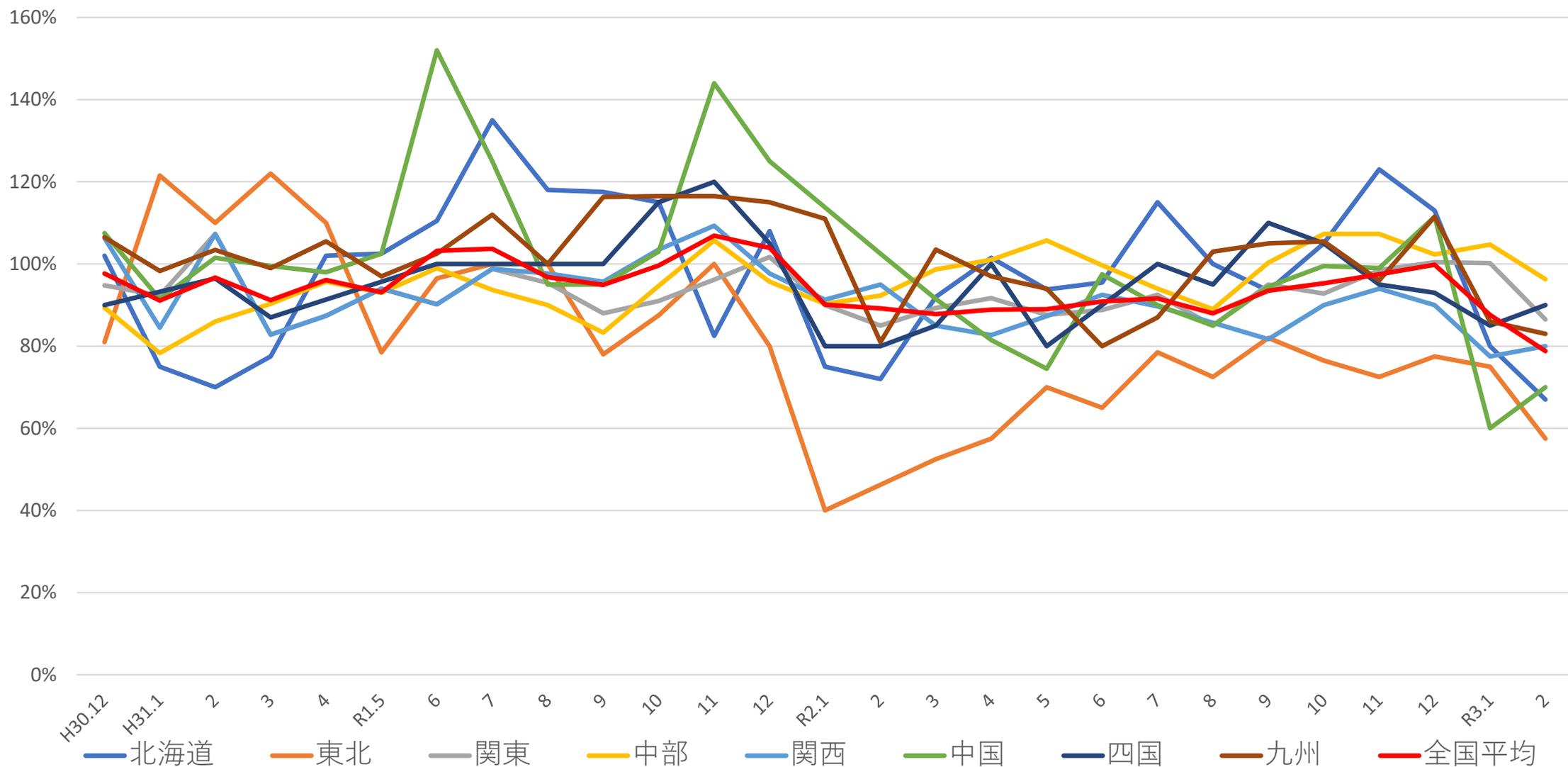
- ・ 原木の在庫量については、令和2年4月以降急激な減少傾向が続いている。
- ・ 原木の入荷量は令和2年4月以降減少していたが、9月以降は増加に転換した。12月には原木不足のため減少した。
- ・ 合板の生産量、出荷量は、令和元年10月以降減少していたが、令和2年9月から増加に転じた。一方、製品在庫は6月以降一貫して減少している。



資料：農林水産省「合板統計」

(3) プレカット稼働率 (地域別・全国)

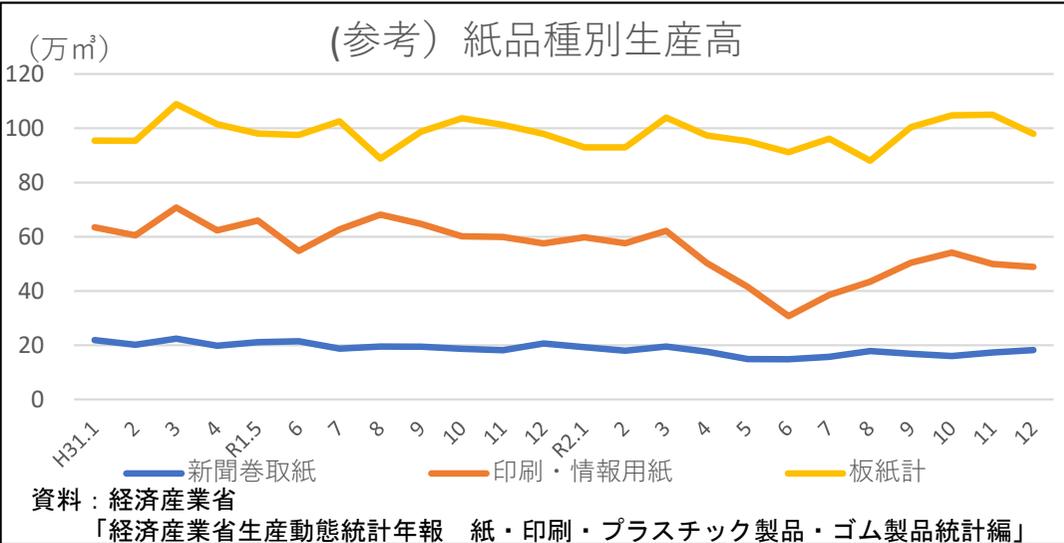
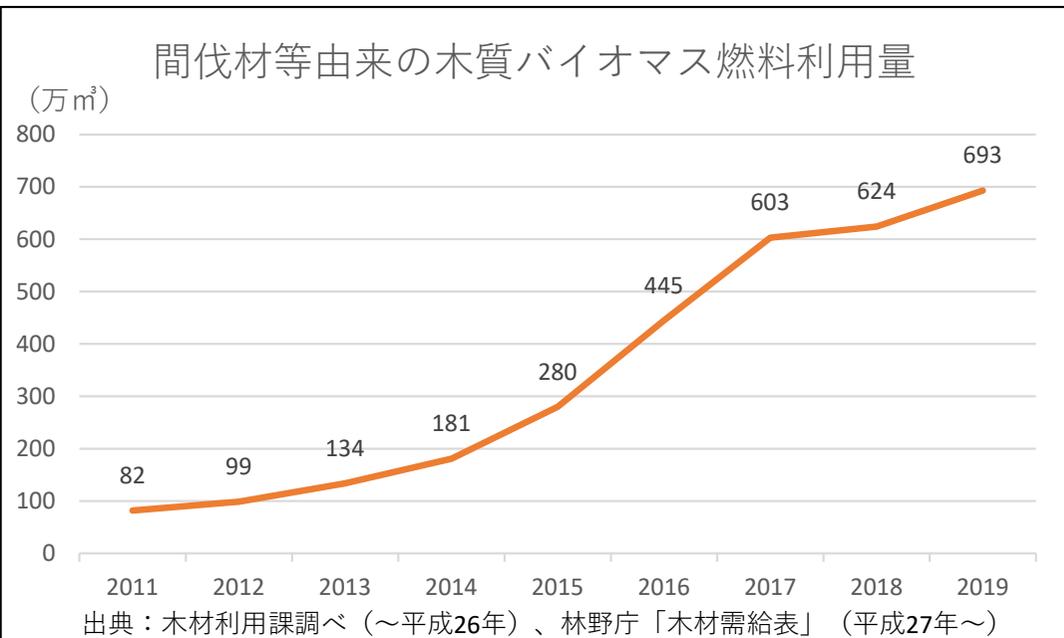
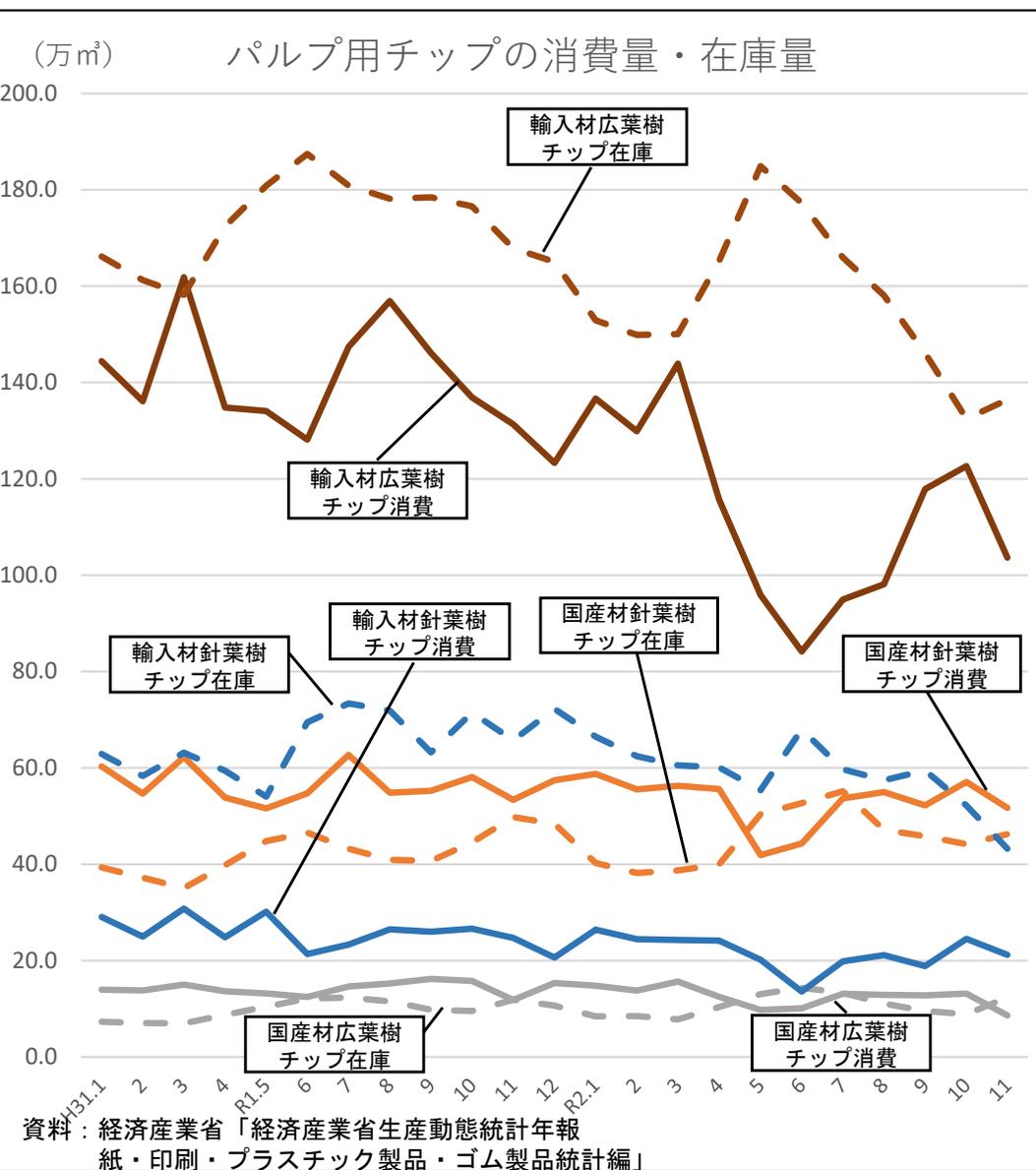
- ・ プレカット稼働率は、北海道地方、東北地方、中国地方で、特異な傾向が見られるものの、全国的には令和2年2月を底に12月まで緩やかな上昇傾向が見られた。1月には例年同様に減少傾向が見られる。
- ・ 令和2年全体を通じて、東北地区では大きな落ち込みが見られた。



資料：日刊木材新聞調べ ※ 稼働率% = 加工量/加工能力、1月分は受注、2月分は見積もり

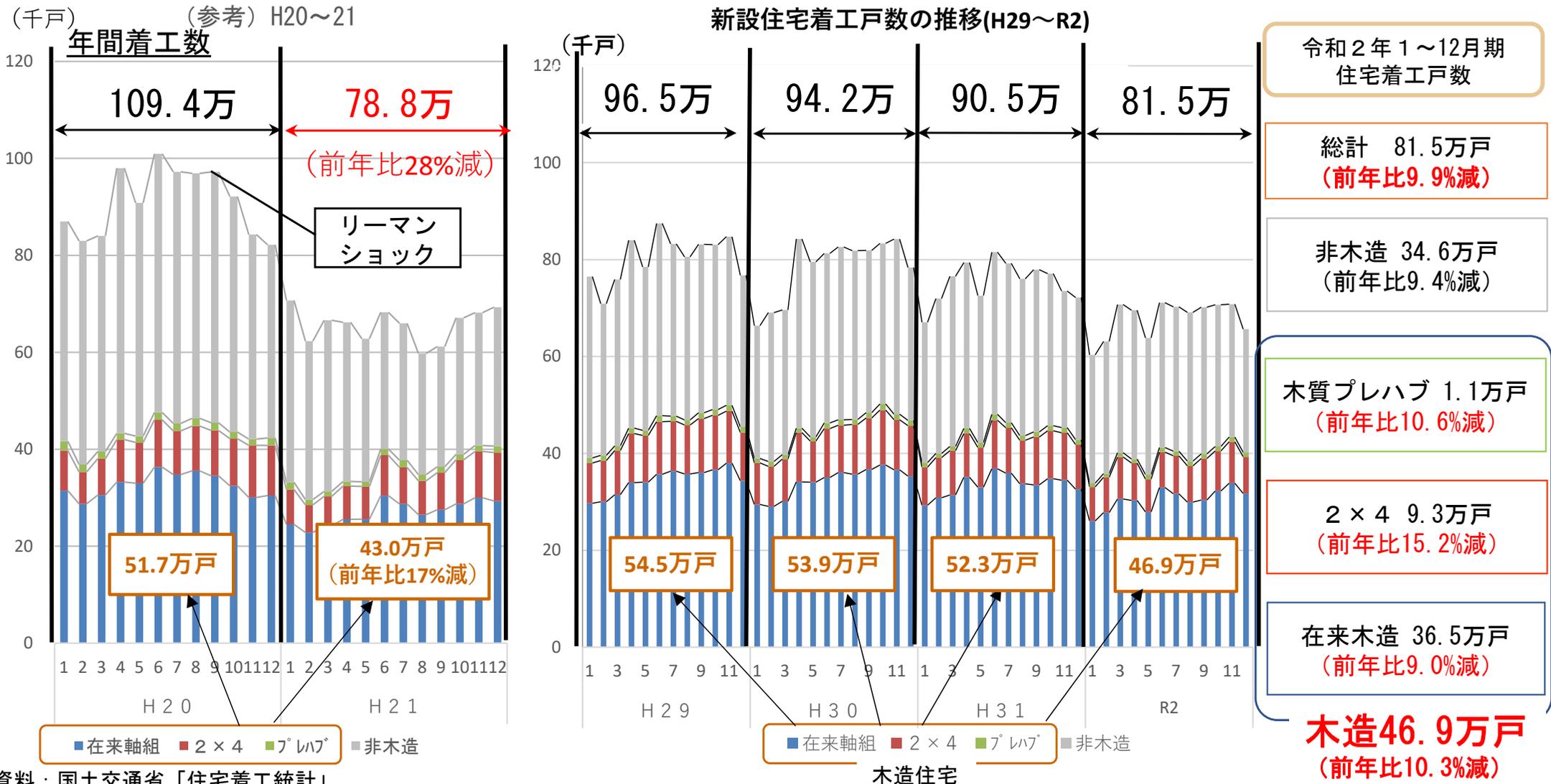
(4) チップ (全国)

- ・ パルプ用チップの消費について、輸入広葉樹チップの消費量は令和2年4月から6月まで激減した。その後7月から10月までは回復した。国産針葉樹チップの消費量は、令和2年5月に大きく減少したが、その後回復した。
- ・ テレワークの普及により、令和2年4月から6月に印刷・情報用紙の生産が減少したことが原因と考えられる。
- ・ 木質バイオマス発電向け燃料は、増加傾向が続いている。



3 住宅着工数の推移 (平成20年1月～令和2年12月)

- 令和2年の新設住宅着工戸数は、81.5万戸（前年比9.9%減）。木造住宅は46.9万戸（前年比10.3%減）。
- 緊急事態宣言の発令により、住宅展示場の来場者数が落ち込むなど大手・注文住宅の受注機会が大幅に減少したが、郊外の戸建住宅に需要が高まるなど全体としてはリーマンショックほどの落ち込みは見られなかった。



4 主要木材の需給見通し（令和元年第2四半期～令和3年第2四半期）

林野庁が主催する木材需給会議（12月22日開催）では、今後の需給見通しを以下のとおり見通している。

- ・ 国産製材用丸太は、第3四半期に前年同期比79.2%に減少したが、第4四半期以降増加に転じると見込む。
- ・ 国産合板用丸太は、第3四半期に前年同期比77.6%に減少したが、第4四半期以降増加に転じると見込む。
- ・ 合板の国内製造は、第3四半期に前年同期比81.7%に減少したが、第4四半期以降増加に転じると見込む。
- ・ 製材、合板、構造用集成材の輸入は、第4四半期以降やや増加すると見込む。

（下段は前年同期比）（カッコ内は前回までの見込み）（単位：千m³）

年	四半期	区分	丸太			輸入 製材品 計	合板		構造用集成材	
			国産材		輸入 計		国内製造	輸入	国内製造	輸入
			製材用	合板用						
令和元年 (平成31年)	4-6月	実績	3,366	1,256	827	1,567	821	614	475	210
			103.1%	108.4%	104.1%	94.8%	100.8%	79.2%	102.2%	92.1%
	7-9月	実績	3,046	1,190	658	1,501	841	589	490	218
			103.9%	111.5%	83.7%	99.8%	104.7%	89.2%	108.9%	110.6%
	10-12月	実績	3,324	1,212	715	1,352	865	648	505	214
		99.1%	102.5%	97.1%	94.2%	106.4%	83.6%	109.8%	111.4%	
	年計		13,108	4,839	3,026	5,795	3,324	2,535	1,915	839
			103.3%	108.1%	94.0%	94.4%	103.3%	86.7%	105.5%	103.2%
令和2年	1-3月	実績	3,222	1,217	649	1,261	801	633	460	212
			95.6%	103.1%	78.6%	91.7%	100.5%	92.5%	103.4%	107.6%
	4-6月	実績	2,861	1,027	555	1,461	696	616	465	256
			85.0%	81.8%	67.1%	93.3%	84.8%	100.4%	97.9%	121.9%
	7-9月	実績	2,411	923	510	1,235	687	455	405	240
			79.2%(88.6%)	77.6%(92.5%)	77.5%(95.0%)	82.3%(83.3%)	81.7%(86.8%)	77.2%(92.7%)	82.7%(74.5%)	110.2%(91.8%)
10-12月	見込み	2,800	1,100	491	1,164	780	530	430	235	
		84.2%	90.8%	68.7%	86.1%	90.2%	81.8%	85.1%	109.9%	
	年計		11,294	4,267	2,205	5,121	2,964	2,234	1,760	943
			86.2%	88.2%	72.9%	88.4%	89.2%	88.1%	91.9%	112.4%
令和3年	1-3月	見通し	2,800	1,100	618	1,190	770	544	390	225
			86.9%	90.4%	95.2%	94.4%	96.1%	85.9%	84.8%	106.1%
	4-6月	見通し	3,000	1,100	597	1,250	750	538	430	225
			104.9%	107.1%	107.6%	85.6%	107.8%	87.3%	92.5%	87.9%